

【担当教員】

猪原健弘 (東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授)
大岡山キャンパス西 9 号館 8 階 813 号室 (電話: 03-5734-3366、内線 3366) ほか
E-mail: inohara@valdes.titech.ac.jp

【講義のねらい】

合意形成学の広がりと深さを学ぶ。特に、1. 合意形成の理論、2. 合意形成学の方法、3. 合意形成の実践、という 3 つのテーマから、合意形成学についての理解を深める。

【講義計画】開講曜日時間帯: 水曜、10:45-12:15

4 月 11 日: 猪原健弘 (東工大・価値システム専攻) 本講義についてのガイダンスを行う。

4 月 18 日: 今田高俊 (東工大・価値システム専攻) **グループ 1**

テーマ: 社会理論における合意形成の位置づけ—社会統合から社会編集へ

概要: 合意形成はこれまで社会理論の主題として扱われてこなかったといっても過言でない。社会理論で合意を問題とする際には、合意モデルか葛藤モデルかという色分けに用いられるのが一般的である。合意モデルは秩序に関して合意形成がなされた社会を前提とするのに対し、葛藤モデルは社会は対立の渦巻きであることを強調する。この回では、パーソンズとハーバーマスという 20 世紀を代表する社会学者の社会理論に潜む合意形成との関わりを議論し、彼らの理論を乗り越える合意形成の地平を探る。

4 月 25 日: 中井豊 (芝浦工業大学) **グループ 2**

テーマ: 合意の前提となる相互協力関係の生成と崩壊

概要: 血縁や地縁などのつながりが無い社会や組織において合意形成が実現されるためには、そもそも構成員が議論に参加しなければならない。ところが、構成員に利己的な人間を想定すると、この議論への参加自体を自明視できなくなる。本章では、利己的な諸個人の集団にインフォーマルな協力関係が自己組織化し、合意形成の基盤が生まれる論理を探求し、その可能性と限界を明らかにする。

5 月 2 日: 金子宏直 (東工大・価値システム専攻) **グループ 3**

テーマ: 合意形成と法的拘束力

概要: この回では、「合意」とは、民法等の法律にしたがう契約のような、法的に意味付けられるものを指す。合意形成のもっとも小さな単位として、契約の成立を取り上げる。この回の目的は、法律上、合意という概念がどのような概念を基礎にするものかを順に理解していくことにある。結論として、法律における合意の概念は二当事者を基本とする特徴があり、合意の主体が複数になる場合には、合意に関する諸原則をどのように修正するかが合意形成を理解するうえで重要となる。

5 月 9 日: 坂野達郎 (東工大・社会工学専攻) **グループ 2**

テーマ: 討議型意識調査手法「Deliberative Poll」の実験

概要: 1990 年代から無作為抽出された市民による討議を公共的意思決定に活用しようとする社会実験が世界的に広がってきている。討議は社会の規模が大きくなると効率的でなくなってしまうため、近代民主制のほとんどは間接民主制を採用してきた。この回では、討議型意識調査手法「Deliberative Poll」の設計思想と事例をもとに、無作為抽出市民による討議は、規模と討議密度のトレードオフ問題に対処する手段として有効であり、討議民主主義実現の鍵となることを論じる。

5 月 16 日: (金曜授業の日、本講義はなし)

5 月 23 日: 木嶋恭一 (東工大・価値システム専攻) **グループ 1**

テーマ: 合意形成のモデルと方法

概要: この回では、まず、合意形成という概念を、意見の一致であるコンセンサスと、多様な意見の一時的な共存並立状態を意味するアコモデーションに区別する。ついで、合意形成に関与するステークホルダーを自律的で目標生成的な主体として捉える多主体複雑系の視点から、その数理的な分析枠組みの 1 つである知的多主体学習モデル (Poly-agent Learning Model) を用いて、合意形成の構造化を行い、それにもとづき、合意形成とは何かを厳密に議論する。さらに、とくにアコモデーションの達成に焦点を当て、合意形成支援の意味についても考察する。

5 月 30 日: 猪原健弘 (東工大・価値システム専攻) **グループ 4**

テーマ: 合意と合意形成の数理—合意の効率、安定、存在

概要: この回では、「合意」を「すべての主体が同意する案が存在している状態」として、また「合意形成」を「状況の初期状態から『合意』にいたる過程」としてとらえ、合意と合意形成の数理的な定義を与える。そして、合意と合意形成の性質を分析し、合意案の効率性、安定性、存在を数理的に証明する。

6 月 6 日: 荒井祐介 (東工大・価値システム専攻) **グループ 3**

テーマ: 多数決型民主主義モデルと合意形成型民主主義モデル

概要: 有名なリンカーンの演説を引けば、民主主義とは「人民の、人民による、人民のための政治」ということになる。しかし、この定義では、「人民」とは誰のことなのか、別言すれば、「誰が」「誰のために」統治を

行うのかという点は明らかではない。この問題を考えていくと、民主主義には大きく分けて 2 つのモデルが存在することがわかる。この講義では民主主義の 2 つのモデル、「多数決型民主主義モデル」と「合意形成型民主主義モデル」の制度的特徴を説明する。

6 月 13 日：新田克己（東工大・知能システム科学専攻）**グループ 4**

テーマ：合意形成を支援するツール

概要：合意を形成するためには、関係者の主張を比較し、分析し、幅広い観点から解決案を検討していく必要がある。この回では、まず合意形成のために利用されてきた問題解決の基本的な手法を紹介した後で、それらの手法をコンピュータで支援するツールを紹介する。支援ツールを 3 つのタイプに分類して、それぞれのタイプの機能の説明をした後、2 つの合意形成支援ツールの説明を行う。

6 月 20 日：出口弘（東工大・知能システム科学専攻）**グループ 1**

テーマ：社会シミュレーションを用いた合意形成

概要：合意形成ツールとしての社会シミュレーションの最近の発展を紹介する。

6 月 27 日：桑子敏雄（東工大・価値システム専攻）**グループ 2**

テーマ：社会基盤整備での社会的合意形成のプロジェクト・マネジメント

概要：この回では、合意形成を「多様な意見の存在を承認し、それぞれの意見の根底にある価値を掘り起こして、その情報を共有して、解決策を創造するプロセス」、「みんなで話し合い、熟慮された賢明な提案を採択し、笑いを含む工夫をこらしながら、決断へと至るプロセス」ととらえ、このようなプロセスを通じて得られた結果を「合意」とする。社会基盤整備での社会的合意形成プロセスの構築をプロジェクトとしてマネジメントする必要性と、マネジメントにおける合意形成プロセス構築の段階を設計・運営・進行とし、それぞれについて述べるとともに、合意形成プロセスを失敗に終わらせる要因を合意形成プロセスに対するリスクとしてとらえ、その対処の方法について論じる。

7 月 4 日：佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）**グループ 1**

テーマ：河川事業における合意形成

概要：河川事業も他の公共事業と同様、事業を進めるために国民や地域の合意形成が重要である。本講義では同事業での合意形成に関連する制度や基準について説明するとともに現場での事例や課題等を説明する。

7 月 11 日：吉武久美子（順天堂大学）**グループ 3**

テーマ：生殖の医療と合意形成

概要：「合意形成」を「関係者の多様な価値観を踏まえて、納得のいく解決策を見出す創造的なプロセス」ととらえる。「合意」とは、「関係者の意見の一致」である。そのうえで、生殖医療の臨床現場での意思決定では、「合意形成」の方法を導入する必要があるということを示す。また、医療での合意形成のとらえ方とその要素について論じる。医療での合意形成による意思決定では、自分の意思をもてないステークホルダー分析がきわめて重要である。

7 月 18 日：松本光崇（（独）産業技術総合研究所）**グループ 4**

テーマ：IT 化の進展と合意形成

概要：この回では二つの視点から IT 化進展と合意形成の関連を考察する。一つは、IT 化は、今日、大きな社会変化と経済の構造的な変化をもたらしているが、そうした変化に対応するために社会的な合意形成が求められている点である。そこで IT 化がもたらす変化の本質と必要な合意形成について考察する。もう一つは、IT 化はインターネットの出現を通じて我々に合意形成の新しい手段を提供している。その内容を考察する。

7 月 25 日：猪原健弘（東工大・価値システム専攻）レポート提出についての指示を行う。

8 月 1 日：（期末試験・補講）予備日

8 月 8 日：（期末試験・補講）予備日・レポート提出締切

【成績評価】

レポート（各グループにつき 1 つ（合計 4 つ））100%による。締め切りは、8 月 8 日（水）。別紙「レポート提出の要領」参照のこと。

【テキスト等】

「合意形成学」（勁草書房、2011 年）を教科書として用いる。また、必要に応じて資料を配付する。

【履修の条件】

本講義は、「合意形成学特別教育研究コース（コース長：猪原健弘教授、コース Web サイト：<http://www.ipcob.org/course/>）」のコース指定科目（必修）である。本講義を履修する場合、このコースを履修することが望ましい。このコースの履修方法や修了認定方法など詳細について、本講義の初回にガイダンスを行う。コース Web サイトもあわせて参照のこと。さらに不明な点がある場合は、courses@valdes.titech.ac.jp宛に問い合わせること。

【担当教員から一言】

「合意形成学」は、科学技術と実社会の間の不整合から生まれる社会問題を解決し、社会を円滑に運営するための基盤として、理工系の学生にも習得が求められています。優れた合意形成メカニズムの構築に必要な、さまざまな分野の「知」に触れてください。